

## 平成27年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立古里中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

平成27年4月21日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語A 121人 国語B 121人

② 数学A 121人 数学B 121人

③ 理科 121人

#### 5 留意事項

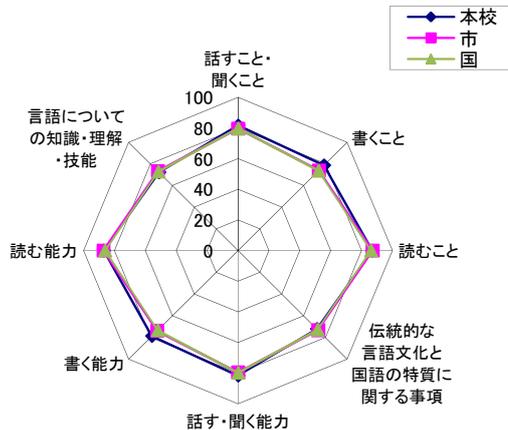
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立古里中学校第3学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

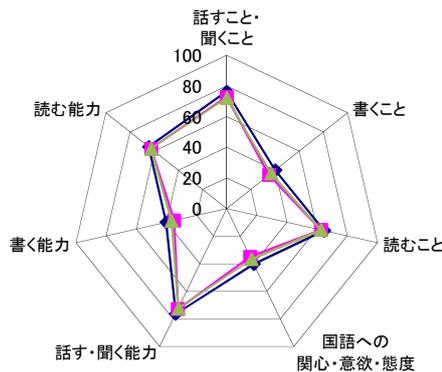
### 【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	81.6	79.5	79.7
	書くこと	78.8	74.1	73.6
	読むこと	86.9	87.2	86.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.3	73.4	72.9
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	81.6	79.5	79.7
	書く能力	78.8	74.1	73.6
	読む能力	86.9	87.2	86.1
	言語についての知識・理解・技能	72.3	73.4	72.9



### 【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	76.3	72.8	72.2
	書くこと	40.2	35.0	36.7
	読むこと	64.6	62.6	62.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	40.2	35.0	36.7
	話す・聞く能力	76.3	72.8	72.2
	書く能力	40.2	35.0	36.7
	読む能力	64.6	62.6	62.6
	言語についての知識・理解・技能			



## ★国語に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○約90%の生徒が国語は大切だと考えており、約85%の生徒が将来社会に出たときに必要だと考えている。また、読書が好きと答えた生徒も約80%おり、栃木県の平均より10%高く、国語などに興味・関心が高いことが分かる。

○国語の授業で自分の考えを書くと、考えの理由が分かるように気を付けて書いているかという設問に対して、肯定的回答が76.1%、栃木県平均71.5%、全国平均が65.5%に比べて高い。

●国語の授業はよくわかるかという設問で、肯定的回答が72.7%で、栃木県平均78.3%、全国平均74.3%に比べて少ない。

## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

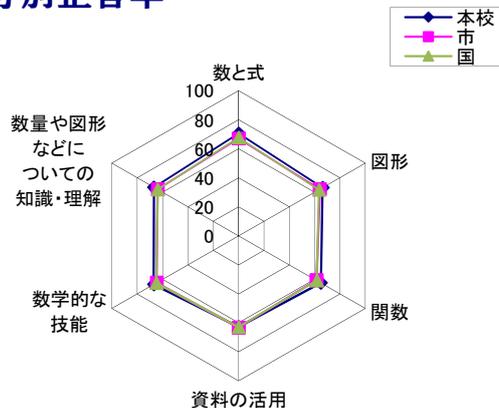
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○A 宇都宮市より2.1%、全国より1.9%高い。 ○B 宇都宮市より3.5%、全国より4.1%高い。	場面に応じて、正しい言語表現をすることができるように、敬語の学習を進めてきた。今後は、その中でも、尊敬語、謙譲語に力点を置き、指導に努めたい。また、コミュニケーションにおいて、話を聞くということは不可欠である。「聞く時は聞く」、「話すときは話す」ことを、日頃の授業でも取り入れているが、メモの取り方なども再確認して指導していきたい。
書くこと	○A 宇都宮市より4.7%、全国より5.2%高い。 ○B 宇都宮市より4.8%、全国より3.5%高い。	本校の今年度の学力向上プランの一つに、「自分の考えをまとめ表現する力の向上」が挙げられている。普段の授業から「活用型の授業」を意識して行うよう心掛けて行きたい。また、作文指導を今後重点的に行っていきたい。
読むこと	○A 宇都宮市より0.3%低いが、全国より0.8%高い。 ○B 宇都宮市と全国より2.0%高い。	小説や物語は、登場人物の心の動きを捉えること、また、評論文等は、筆者の意図や主張を読み取る大切である。そのため、本文へのマーキングを続けたい。また、物語や論説文の展開を、視覚的に把握するためのワークシートを作成し、活用していきたい。マーカーペンや付箋を使い、文章の要約に役立てたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	● 宇都宮市より1.1%、全国より0.6%低い。	新出、既出を問わず、練習プリントを使って、漢字の学習を継続していく。また、語句の意味調べも、国語ワークを利用し、継続する。古文に関しても、重要語句を押さえ、語彙が増えるような学習を進めたい。慣用句やことわざは、国語資料集やことわざ辞典を使って調べ学習をさせることにより、自発的に取り組ませていきたい。

# 宇都宮市立古里中学校第3学年【数学】分類・区別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

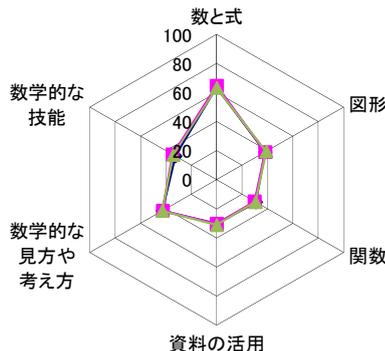
### 【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	70.6	67.0	67.7
	図形	66.3	64.1	63.4
	関数	64.9	61.4	61.7
	資料の活用	62.8	63.3	63.0
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	67.1	64.8	65.0
	数量や図形などについての知識・理解	66.9	64.0	63.9



### 【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	63.6	64.8	63.2
	図形	38.2	38.3	39.0
	関数	30.9	29.9	30.7
	資料の活用	30.2	30.4	31.2
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	42.8	42.6	42.8
	数学的な技能	32.6	34.9	34.2
	数量や図形などについての知識・理解			



## ★数学に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○82.7%の生徒が、数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと考えている。数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える生徒は50.4%で栃木県より6.7%、全国より9.5%高い。

○92.5%の生徒が、数学ができるようになりたいと思いい、81.8%の生徒が数学の授業がわかると答えており、栃木県より7.5%、全国より10.2%高い。

●17.3%の生徒が、数学の授業の内容がよくわからないと答えていることも見落とせない。

## ★指導の工夫と改善

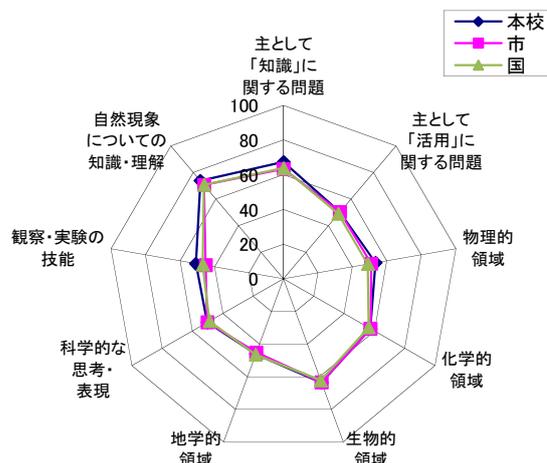
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○A 宇都宮市より3.6%、全国より2.9%高い。 ●B 宇都宮市より1.2%低い。特に、連続する5つの整数の和について予想したことを文章で書く問題の正答率は61.2%で、宇都宮市より3.8%、全国より2.6%低い。	基本的な計算の確実な定着を図るため、T・Tの授業を有効に利用した個別指導や、反復練習の充実を図る。また、数量関係について、身近な場面で規則性や性質などに気づき、気づいたことを文章で書く活動を授業に取り入れる。
図形	○A 宇都宮市より2.2%、全国より2.9%高い。 ●B 宇都宮市より0.1%、全国より0.8%低い。特に、四角形がいつでも平行四辺形になるように点の位置を決める方法を根拠をもとに説明する問題の正答率は16.5%で、宇都宮市より2.8%、全国より4.7%低い。	図形の証明について、根拠となる事柄をしっかりと身につかせた上で、証明の手順に従って説明ができるよう、方針を立てる活動の充実を図る。さらに、発展的に図形をとらえ、図形を具体的な場面に当てはめて説明する活動を、授業で積極的に扱うようにしていきたい。
関数	○A 宇都宮市より3.5%、全国より3.2%高い。 ○B 宇都宮市より1.0%、全国より0.2%高い。	関数は、身近な教材を取り入れやすい分野であるので、関数の授業では、積極的に具体的な場面を取り上げて考えさせていきたい。また、比例・反比例・1次関数の基礎基本の習得を図るための復習を行うとともに、関数を活用する問題練習を数多く取り組ませていきたい。
資料の活用	●A 宇都宮市より0.5%、全国より0.2%低い。特に、中央値を求める問題の正答率は42.1%で、宇都宮市より3.7%、全国より3.9%低い。 ●B 宇都宮市より0.2%、全国より1.0%低い。特に、表をもとに割合を求める式を求める問題の正答率は36.4%で、宇都宮市より0.6%、全国より2.7%低い。	階級値・中央値・平均値などの数学用語の意味と求め方の復習問題を用意し、復習をさせたい。また、この分野は、数学の中でも一番身近な内容を扱うところなので、親しみを感じながら復習ができるよう、問題を精選して復習させたい。

# 宇都宮市立古里中学校 第3学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
枠組み	主として「知識」に関する問題	67.3	63.3	63.8
	主として「活用」に関する問題	50.2	50.3	48.8
分野等	物理的領域	53.4	50.9	48.9
	化学的領域	57.4	57.5	56.2
	生物的領域	63.6	63.4	62.2
	地学的領域	46.1	45.2	46.4
観点	自然現象への関心・意欲・態度			
	科学的な思考・表現	50.2	50.3	48.8
	観察・実験の技能	50.8	45.1	46.8
	自然現象についての知識・理解	73.9	70.6	70.6



## ★理科に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行うかという設問で、肯定的な回答が、県の平均には及ばないが、全国の平均を上回る89.3%と高い。  
 ○自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがあるか、理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うかという設問で、県・全国の平均を上回っている。  
 ●将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思うかという設問で、肯定的な回答が、県・全国の平均と同様に10%前後ととても低い。

## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物理的領域	○宇都宮市より2.5%、全国より4.5%高い。 ●電流と磁界の関係の問題では理解と定着が低く、無回答者も少なくない。	ひとつひとつの基本の理解はできているが、電流と磁界と力など複数の関係性を問われ、さらに説明することを苦手としている傾向にあるため、問題演習を行うことで、思考力、表現力を身につけさせたい。
化学的領域	○全国より1.2%高い。特に、気体の性質、物質を化学式で表す、化学変化と質量の変化に関する問題では、県・全国の平均を上回っている。 ●宇都宮市の平均より0.1%低い。特に、濃度も求めたり、化学変化を活用する問題では、正答率が低く、無回答者が少なくない。	身近におこっている化学変化について、話題にしてふれるとともに、計算を必要とする問題への振り返りと、問題演習とていねいな解説をおこなう。
生物的領域	○宇都宮市より0.2%、全国より1.4%高い。 ●酵素のはたらきや生物の観察から得た結果を活用した問題では、県・全国の平均を下回り、無回答率が高い。	知識は徐々に定着してきているが、思考を伴う応用問題に取り組んだり、問われていることに対して適切な表現をしたりすることを苦手としているため、応用問題や記述で解答する問題に取り組ませる。
地学的領域	○宇都宮市より0.9%高く、特に、天気図から風向を読み取り、その風向きを示している風向計を選ぶ問題では、県・全国の平均を上回っている。 ●全国より0.3%低い。特に、気温差から降水量の違いを調べる装置を選ぶ問題では、県・全国の平均を下回っている。	生物的領域と同様、知識は徐々に定着してきているが、思考を伴う応用問題に取り組んだり、問われていることに対して適切な表現をしたりすることを苦手としているため、応用問題や記述で解答する問題に取り組ませる。

## 宇都宮市立古里中学校第3学年生徒質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○95%を超える生徒が、いじめはどんな理由があってもいけないことだと思い、人の役に立つ人間になりたいと思っている。この心を大切に育てていけるよう、学校教育の全ての場で指導していきたい。

○82.7%の生徒が、家の人と学校での出来事について話をし、93.4%の生徒が、家の方は授業参観や運動会などの学校行事に来てくれると回答している。家庭の中の温かい人間関係と学校教育に関心を持ち協力的な家庭に支えられ、学校と家庭が協力して生徒の教育を推進していきたい。

○63.6%の生徒が、家で自分で計画を立てて勉強していると回答している。これは、栃木県より10.3%、全国より14.8%上回っている。学校全体で取り組んでいる「家庭学習ノート」の活用が定着していることのあらわれと思われる。今後も継続していくとともに、内容をより充実させたものにしていきたい。

○夏休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行くかという設問で、だいたい週4日以上が6.6%、週に1～3回程度が20.7%、月1～3回程度が19.8%と、それぞれ栃木県・全国の平均より大幅に上回っている。司書教諭並びに司書による本の紹介や図書室の活用を今後も続けていく。

●73.6%の生徒が将来の夢や目標をもっているが、否定的回答をした生徒のうち12.4%がはっきりと「いいえ」と答えている。キャリア教育を一層充実させ、生徒が将来について考える機会を多くもてるよう指導していきたい。

●400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいという設問に肯定的回答をした生徒は71.1%であった。全教科で、自分の考えを書くことを授業に取り入れるようにする。